

めぐみの学校の子

恵田小 校長室だより
平成三十一年四月二十日

No. 126

「育てる」から「育つ」へ

校務員さんと教頭先生と、家庭科室前の畑を耕し、整え、栽培活動ができるように準備をした。早速、3年生がキャベツの苗を植え、6年生がジャガイモの種いもを植え、ハウセンカの種をまいた。昨年冬、現4年生が小さな苗から教室で育てたイチゴの苗は、すでに3月、畑に定植され、つぼみや花をつけ、なかには実がなっているものもある。



野菜などは、やはり、最初は「育てる」ことが中心となる。土づくり、畝づくり、種まきや苗の定植など、人の手が多く必要だ。当然、まき時や植え時、肥料やりを人が判断し、考えなければならない。「育てる」意識が重要だ。しかし、日が経つにつれ、人の手をかける時間や回数が減ってくる。水を切らさないように気をつけるだけでよいころになると、野菜は自ら「育つ」時期になる。

学校づくりも、年度初めは「育てる」時期にあたる。私たち教職員の多くの働きかけが必要となる。それは、入学、進級し、新しい生活を始めた恵田っ子の保護者の皆様も同様だろう。この時期を大切にしなければならぬ。「初めが肝心」とはよく言ったもので、この時期の過ごし方が、これからどう「育つ」かに関わってくる。「初めからやり直したい」は不可能だ。子供の自立を見通し、この時期、どう手をかけておくかを考えたい。学校生活、家庭生活ともに重要な時期である。



恵田っ子へ

俳句（はいく）をレベルアップ

恵田っ子の俳句の掲示（けいじ）を始（はじ）めました。三月（さんがつ）に選句（せんく）をしたときよりあとに出（で）たものもあわせて紹介（しょうかい）しています。

今年（ことし）の俳句（はいく）レベルアップの目標（もくひょう）、「季語（きご）を一（ひと）つにする」「気持（きもち）このことばをいれない」ことに、早速（さつそく）、気（き）をつけています。

俳句（はいく）を作（つく）って出（だ）したら、感想（かんそう）やアドバイスを書（か）いて返（かえ）しますね。参考（さんこう）（さんこう）にして、レベルアップしていただくさい。

俳句（はいく）を作ることは、ことばの力（ちから）をつけたり、季節（きせつ）をよりよく感（かん）じたり、自然（しぜん）やもの、ことから、ひとへの考（かんが）えを深（ふか）めたりすることができまします。少（すこ）しずつやっ

ていきましよう。
俳句（はいく）にできませんか。

